

岡山市民版

Okayama

孤立死しないための「人生設計」 講演要旨

故人の家に入って部屋にある遺品を見る時、遺族も知らない人間像が見えてくる。人は部屋に好きな物を集め、癒やしの空間にするからだ。好みの色、趣味、好きなビールの銘柄まで分かる。

50代。友人とと思っていた人は仕事上の知り合いにすぎないことに気付いたら人を招き入れにくい。こないから片付けなさい、ごみが多くなるからゴミを捨てなさい、お風呂のために外出しなさい、人が訪ねてくるとよくなった。食事はコンビニエンスストアで買えばいい。自宅に一人でいてもテレビやビデオ、パソコンがあっても退屈しない。誰とも会話せずに一日が終わる。人間関係という一番煩わしいことに関わらなくても生きていける時代だ。自ら外に出て交流しないと、自分の生活が崩れていくことさえ気付かない。

身内がいることで「迷惑を掛けないように」と生活の乱れに歯止めがかかるが、これからは期待できない。そんな社会をつくったのは、自由と便利さを求めてきた私たちだ。

遺品整理のキーパーズ社長

吉田 太一氏



外に出て人間関係つくくれ

孤立死の7、8割は男性が占めている。年代別では高齢者が多いと思うかもしれないが、月ごとに見ると50〜64歳が65歳以上を上

多いのは、仕事を解雇された。多いのは、仕事を解雇された。多いのは、仕事を解雇された。多いのは、仕事を解雇された。

という悪循環が起きていく。こんな中で孤立死した事例を年間何十件も扱っている。経済発展の結果、ど

身内がいらない。人間は要旨。

岡山市が19日に市内で開いた「消費者のつどい」で、遺族の依頼で遺品整理に当たるキーパーズ(東京)の吉田太一社長が講演した